

2021 年度コロナ禍における基礎看護技術実習

—動画教材を用いた学内実習と成果—

Basic-nursing skills during COVID-19 Pandemic in 2021: on-campus training and achievements using videos teaching materials

松石 健太郎*

宮澤 美津子

鈴木 真理子

田中 高政

桑原 良子

寺島 公江

羽田 かおり

溝口 智鶴

横関 祐子

井部 俊子

長野保健医療大学 看護学部

要旨：2021 年度「基礎看護技術実習」は、新型コロナウイルス感染症の感染者数の増加のため臨地実習ができず、学内実習にきりかえた。実習目標を達成するために担当した教員で学内実習方法を考案して実施した。実習方法は以下とした。まず病院環境を観察することができるように、教員が実際の病院の 1 施設を訪れて動画撮影を行い教材とした。看護の「観察」には DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」で登場する二人の専門看護師の活動を視聴した。学生は所定の行動計画用紙にもとづいて記述し、カンファレンスで視聴した共通画面をとりあげ議論をすることによって倫理的視点や看護行為について理解を深めた。「自分の考えの根拠となった場面」「考察」「結論」に一貫性のある学生 4 名の記述内容を分析した。本稿では、担当した教員の発言を要約、整理し、動画教材を用いた学内実習の成果として学生の観察能力の向上および看護師の役割の理解、看護行為における倫理的視点について考察し、報告する。

キーワード：新型コロナウイルス感染症、基礎看護技術実習、学内実習

1. はじめに

看護学実習は、学生が学士課程で学修した教養科目、専門基礎科目の知識を基盤とし、専門科目としての看護の知識・技術・態度を深化し、検証することを通して実践へ適応する能力を修得する授業である⁽¹⁾。カリキュラムの一環として位置づけられ、その具体的な方法は各大学が責任をもって決定している。

令和 2 年、新型コロナウイルス感染症が世界規模で流行し、看護学臨地実習の実施は著しく困難になった。文部科学省は厚生労働省と共に、学校養成所における実習等の授業の弾力的な取り扱いについて周知し⁽²⁾、実習に代えて演習又は学内実習等の実施によって必要な知識及び技能

を習得することとして差し支えないとした。

本学 2 年次の基礎看護技術実習において、新型コロナウイルス感染症拡大により臨地での実習が困難となったため、それに代えて教育の質を維持し教育効果をあげるための学内実習を工夫し実施したので報告する。

2. 基礎看護学のカリキュラムと臨地実習

本学の基礎看護学のカリキュラム構成は、1 年次前期に「看護学概論」、および「基礎看護技術論Ⅰ」を通して、日常生活援助技術を学ぶ。後期に「基礎看護技術論Ⅱ」において診療援助技術を学ぶ。2 年次前期は「ヘルスアセスメント方法論」においてフィジカルアセスメント、および看護過程を学ぶ。臨地実習は、1 年次「ヒューマンケア体験実習」で、人間と人間そして患者と看護師の関係性の重要性を理解し、関係を築

*e-mail: matsuishikentaro@shitoku.ac.jp

(受付日：2021 年 12 月 21 日／受理日：2022 年 4 月 28 日)

き・深めるためのコミュニケーションに関する概念、モデル、方法及び態度を学ぶ。2年次、基礎看護実習として9月に「基礎看護技術実習」(1単位)、3月に「看護展開論実習」(2単位)を行う。

基礎看護技術実習では「病棟実習を通して看護実践の場や看護師の活動の実際に触れ、どのように看護を展開していくかを具体的に学ぶ」ことを目的とし、臨地実習(4日間臨地、1日間学内)を予定していた。初日に看護部長による病院の概要説明、看護部の役割と機能、院内見学や病棟見学を通して看護部の活動やさまざまな職種の業務を理解し、2日目以降に病棟看護師のシャドウイングによって、リアルな看護実践場面を多角的に学ぶ内容であった。見る、感じる、考えることによって看護実践の実際を学び、看護師の臨床判断を知ることをねらいとした。

3. 基礎看護学技術実習 代替案の検討

3-1. 代替案を検討しなければならなかった経緯

2021年8月20日に長野県の全県において感染警戒レベルがⅤとなり、「医療非常事態宣言」が長野県知事より発せられた。これらにより病院で実習を行うことが難しくなり臨地実習の代替案として5日間の学内実習を行うことを決定した。

3-2. 目標の確認と到達方法の検討

学内実習の実習目標、実習評価基準は変更せず、当初の目標を達成するために、学内実習の方法を検討した。昨年度から新型コロナウイルス感染拡大により臨地実習の実施が困難な事態が発生し、昨年度の当実習では動画を用いた学習を行った。動画を用いた学習は学生が看護場面を見て考えたことを学生や教員と話し合うことにより、どのようなことを観察したかを整理することに有用であった。したがって今回の学内実習においても動画を見ることにより、当実習の重要な点の1つである観察を行うことを検討した。さらに、看護学生の学習用に作成された動画ではなく、より現実の場面に近いドキュメンタリーを使用することとした。また病院の協力が得られたことから、入院患者の生活の場

を観察するために病院内の施設を撮影し、その動画に教員が説明を加え学生に紹介した。

4. 基礎看護技術実習の学内実習内容

学内実習において、実習目的であった「看護実践の場や看護師の活動の実際に触れる」こと、つまり臨床現場のリアリティを確保するために、1) 実習病院の1施設において、患者の入院生活や治療に係る施設内の設備環境を撮影した動画、2) 専門看護師の臨床現場での実践を紹介したNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」のDVDを教材として活用した。このDVDは現実世界の映像であったため学生は臨床現場のリアリティを実感し、熟練看護師の実践を目の当たりにすることで臨床的な想像力が刺激されると考えて教材として選択した。

4-1. 施設内の設備環境の動画

患者の療養生活に必要な病室の様子(ベッドとベッドとの距離、窓の位置、カーテン、ナースコール、酸素等の中央配管、床頭台等)、洗濯室や清拭室(シャワー室)などの設備、美容室や売店など公共施設から、患者にとっての入院生活上の不自由さや問題点などについて考える。

治療に係る部門として、各種検査室(生理検査室、CT・血管造影室)、薬剤科(薬剤倉庫、製剤室、調剤室等)、中央材料室などの役割を知ること、また、これらの部門と看護との連携について考える。

4-2. DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」

教材として用いた2本のDVDの概要を示す。

1) 迷わず走れ、そして飛び込め 専門看護師 北村愛子の仕事

【概要】急性・重症患者看護領域の専門看護師のパイオニアである北村愛子の看護実践が紹介されている。例えば、重篤な肺炎で危険な状態にあった患者が危機的状況は脱したものの意識は不明瞭な状態が続く、看護師は患者とその夫を医師の許可を得てICUから病院ロビーで行われたクリスマスコンサートに連れ出した場面がある。看護師は、病状の回復の兆しが見えたタイミングで、思い切って患者を起こして動かす

ことを医師に提案した場面など、命の危機に瀕している患者とその家族への看護実践である。

2) 希望は必ず見つかる がん看護専門看護師 田村恵子の仕事

【概要】がん看護専門看護師のパイオニアである田村恵子の看護実践が紹介されている。例えば、終末期のがん患者が治療効果よりも副作用で苦しむだけの可能性が高い状況でも、看護師は患者自身が強く治療を臨めば、その患者の選択を全力で支えていた。また、病状の進行が速く、2ヶ月後に控えた娘の結婚式まで生きられない可能性が高い状態の患者・家族に対して、苦しい決断を迫られながらも寄り添い続けていた。

4-3. 学習内容の整理（添付資料）

DVD を視聴し、行動計画用紙の病院実習 1 日目について①病院実習初日に、病院の環境について、見たこと、考えたこと。②入院患者の生活の場である病棟や病室について見たこと、考えたことについて整理した。また資料 行動計画用紙の病院実習 2～4 日目について、①看護師が患者とかかわった（相互行為）場面、②患者の状況について（学生が気づいたこと、解釈したこと、看護師が行った行為とその理由、看護師の行った行為に対する患者の反応）③看護師はどのように考えて行動したのか（看護師の考

え）④見学した状況や場面の全体を記述し考えたことの 4 項目について整理した。

4-4. カンファレンスにおける学びの共有

1 グループを 5～6 名（計 16 グループ）とし、各グループが毎日お互いの学びをカンファレンスで共有した。カンファレンスのテーマは各日の学習目標に沿って設定した（表 1）。

4-5. 評価対象

評価対象となる学生は、看護学部 2 年次の履修者 81 名である。また、資料に添付した行動計画用紙の記録、そして、課題レポートと実習中に行ったカンファレンスを解析対象とした。

5. 倫理的配慮

学生に「実践報告書作成協力の同意書、および撤回書」を用いて、長野保健医療大学紀要への投稿論文「2021 年度コロナ禍における基礎看護技術実習」の執筆計画について説明を行った。また論文作成に必要な行動計画用紙の記述およびカンファレンス記録の内容を使用すること。協力の同意は自由意志であり、成績には影響をしないこと。個人が特定されないことを説明し、学生に同意を得たうえで実施した。

表 1 2021 年度基礎看護技術実習 学内実習内容とカンファレンスのテーマ

各日の学習目標	AM	PM
学内実習 1 日目 学習目標：入院患者の生活の場である病棟や病院を観察することができる	療養環境についての講義 施設環境の動画視聴	カンファレンスのテーマ：「患者にとって生活の場である病院、病室はどのような場であるか」
学内実習 2 日目 学習目標：入院患者と看護師の相互行為場面を観察することができる 看護技術が提供される場面を観察することができる	「プロフェッショナル仕事の流儀 迷わず走れ、そして飛び込め専門看護師 北村愛子の仕事」を視聴する	カンファレンスのテーマ：「看護師の効果的なコミュニケーション、提供された看護技術の目的と特徴について」
学内実習 3 日目 学習目標：看護師はどのような職種と関わっているか観察することができる	「プロフェッショナル仕事の流儀 希望は必ず見つかる がん看護専門看護師 田村恵子の仕事」を視聴する	カンファレンスのテーマ：「他職種との協働・連携における看護師の役割とは何か」
学内実習 4 日目 学習目標：看護師の倫理的配慮の場面、患者の安全・安楽・自立を目指した看護技術の提供の場面を観察することができる	再度「迷わず走れ、そして飛び込め専門看護師 北村愛子の仕事」と「希望は必ず見つかる がん看護専門看護師 田村恵子の仕事」を視聴する	カンファレンスのテーマ：「看護師に求められる倫理的配慮・患者の安全・安楽・自立を目指した看護技術とは」

6. 評価

6-1. 定量的評価

評価対象である履修者 81 名の学生個々が 5 段階評価で評定した各項目の平均値と分布を示した (表 2)。評点 1 は 40% 未満、2 は 40～59%、3 は 60～79%、4 は 80～89%、5 は 90～100% を示している。

「基礎看護技術実習における目標」の評点平均値は「1-(1) 入院患者の生活の場を観察することができる」、「1-(2) 入院患者と看護師の相互行為場面を観察することができる」、「2-(1) 看護技術が提供される場面を観察することができる」が 4.6 点と高く、「3-(3) 他職種の役割について具体的に述べることができる」が 3.5 点であった。

表 2 基礎看護技術実習における目標 (学生の自己評価)

履修者数: 81 名

実習目標	基礎看護技術実習における目標	平均値	評価 5 の割合	評価 4 の割合	評価 3 の割合	評価 2 の割合	評価 1 の割合
1. 看護の対象となる人々を理解し、専門的な援助関係を築くことができる。	(1) 入院患者の生活の場を観察することができる	4.6	65%	28%	5%	1%	0%
	(2) 入院患者と看護師の相互行為場面を観察することができる	4.6	69%	25%	6%	0%	0%
	(3) 入院患者に対する看護師の効果的なコミュニケーションについてグループメンバーと話し合うことができる	4.3	46%	38%	15%	1%	0%
2. 基礎的な知識や技術を統合し、健康レベルに応じて科学的根拠に基づき看護過程を適用して看護を展開できる。	(1) 看護技術が提供される場面を観察することができる	4.6	67%	28%	5%	0%	0%
	(2) 提供された看護技術の目的と特徴について説明することができる	4.0	25%	49%	25%	1%	0%
3. チームの一員として看護の役割を認識し、他職種との協働・連携の重要性を認識できる。	(1) 看護師の役割について具体的に述べることができる	4.1	27%	54%	17%	1%	0%
	(2) 看護師はどのような職種と関わっているか観察することができる	4.1	35%	47%	17%	1%	0%
	(3) 他職種の役割について具体的に述べることができる	3.5	11%	30%	54%	5%	0%
4. 常に問題意識を持ち、解決のために主体的に取り組む態度を養うことができる。	(1) 学習準備状況を整えて実習を始めることができる	4.4	51%	40%	9%	1%	0%
	(2) 現象を観察するために、自発的に行動することができる	4.0	31%	43%	25%	1%	0%
	(3) 観察した内容を理解するために、自発的に行動することができる	4.0	28%	43%	27%	1%	0%
	(4) 観察した内容を記述することができる	4.4	53%	35%	11%	1%	0%
	(5) 観察した内容をグループメンバー、実習指導者、教員と共有することができる	4.2	44%	35%	20%	0%	1%
5. 看護の実践を通して倫理観を高め、適切な判断と価値観を明確にしていけることができる。	(1) 実習体験を踏まえ、看護師に求められる倫理観について意見を述べることができる	4.0	25%	54%	16%	5%	0%
	(2) 看護技術は、看護の専門知識に基づいて、患者の安全・安楽・自立を目指した行為であることを認識することができる	4.3	43%	46%	10%	1%	0%

6-2. 定性的評価

基礎看護技術実習における実習目標 5 つのうち、課題レポートのテーマとした実習目標 5 の「看護師に求められる倫理観」「安全・安楽・自立を目指した看護技術の提供」について行動計画用紙と課題レポートを用いて、どのような学習成果が得られたのかを分析し記述した。無作為に抽出した 20 人の行動計画用紙の記録を選定し、「看護師に求められる倫理観」および「安全・安楽・自立を目指した看護技術」について一貫性のある記述をしていた 4 人の学生の記述を分析した。学生は A、B、C、D と表記し、学生の記述を〈 〉とし、解説は筆者が（ ）で挿入した。

6-2-1. 看護師に求められる倫理観について

A は 2 つの場面を取り上げた。ひとつめ：〈厳しい現実を伝えても患者の再び治療に臨みたいと意思は変わらず自分の意思を示した場面→看護師は険しい顔をしてから目を閉じ、そして笑顔になった〉の場面をとり上げ、〈看護師は副作用で辛い思いをしている患者をたくさんみてきたからこそその険しい顔だったと思う。しかし、患者の気持ちを支えようと目を閉じ、自分の気持ちを切り替えたのだと思った〉と考え、〈その人らしい人生を支えること、患者の自己決定を支えること〉として結論づけた。

二つめ：〈3 週間後に再入院してきた患者に対して気持ちを確かめていた場面→看護師から「もう厳しいのではないかと」発言することなく、患者自らの発言や患者の言葉だけではなく表情や態度から本当の気持ちを理解しようとしていた〉という場面をとり上げ、〈看護師は常に患者の気持を考えて行動していく必要がある。患者の言葉にならない言葉を聞く、患者が発した言葉だけではなく、表情や態度から患者の本当の気持ちを理解しようとする、向き合うことが看護師として大切だと思った〉と考え、〈その人らしい人生を支えること、患者の自己決定を支えること〉と結論づけた。

B は、〈「娘の結婚式にでたい」という明確な目標がある上で、「動きたい」などの意欲のある発言があり、それに応えるという場面〉をとり上げ、〈例えば明確な目標のない患者や「歩く」などに

対して意欲のない患者への倫理的配慮とはなんだろうか。無理強いすることは倫理的ではなく、かといってそのまま意見を受けとり放っておくことは「安全・安楽・自立」に欠けた行為であり、寝たきりになってしまうリスクも考えられる。目標などを提案してだけでなく、家族などにも話を聞き「歩きたくないきっかけがあったのか」など多方面から配慮していくことも必要と考える〉と考え、〈再治療は副作用のリスクの大きさなど決して安全・安楽に適したものではなく、また再治療がたとえ成功しても普通の生活、一人で自立して生活するには時間がかかるが、それでも患者が治療を望むのであれば、できる限りそれを支えることが倫理的配慮である。自分の思いを自分の言葉で話すことができる方の場合、患者の明確な目標に対して、リスクがある中でも、その目標を達成するために配慮することが倫理的な行動である〉と結論づけた。

C は、〈田村さんの全ての患者に対して自分らしい人生を支えたいと全力で向き合っている姿や、副作用による苦痛の方が大きいと考えられるにも関わらず、治療したいという気持ちを尊重し、応援する場面。田村さんが立ち去る際、田村さんの手をとって「すみません、ありがとうございました」と伝えていて申し訳なさ感謝の両方を感じ取れた。この患者の場合、希望をもって抗がん剤治療を行って、そのあとで自宅から搬送されて治療を 1 度辞めることになった〉場面をとり上げ、〈（この患者の場合）希望が絶たれたともいえるので、最初から治療を行わなかった場合よりも患者が受ける苦しみや辛さ、絶望は大きくなってしまっているのではないかと思えた。何かを伝えることが倫理的配慮なのか、伝えないことが倫理的配慮なのか、矛盾のようなものはあるのかなと感じた。患者にとって何がより良いのかを考えることが重要と学んだ〉と考え、〈どんな状況であっても患者の意思を尊重すること、また、患者の主張している選択をすることによって起こりうるリスクや苦痛を患者本人へ伝えたくて最終的に決定するのは患者に任せる。そのあとで患者が選んだ道を全力で支えること。患者の自己決定を尊重し、全ての人間、全ての命に対して平等に全力で向き合いケアを行うことであり、その中で信

頼関係が築かれていくと考えた。治療を選択することを止めて、苦痛を取りのぞく緩和ケアをもっと強くすすめることもまた患者の安楽を考える上での倫理的配慮になるのではないかと考えた」と結論づけた。

Dは、〈田村さんがとった行動は、永田さんの娘さんの結婚式に出たいという意思に対して結婚式は厳しいかもしれないから娘さんのウェディングドレス姿を見せてあげる提案をしていた。家族が伝えにくそうにしている姿、助けを求めてきたことに対して提案を代弁して伝えた場面〉をとり上げ、〈患者のことを思う、患者の家族のことを思う、そこから繋がり考えて起こす行動を含めてすべてが倫理的配慮なのではないかと考える。倫理的配慮が欠如していると信頼関係を築くことは難しい。看護することは、倫理的配慮に基づいた行為でなければならない〉と考え、〈永田さんの場面から看護師が行った行為は、患者が少しでも自分の決断を実行できるように擁護者として対象者に最もよいと考えられる対応をする「自律の原則」や厳しいという症状について真実を告げる「誠実の原則」という倫理原則に基づいた行為であり、患者だけでなく家族の思いも汲み取った論理的配慮を考慮した行為であった〉と結論づけた。

6-2-2. 安全・安楽・自立を目指した看護技術の提供について

Aは、〈話すとき手を握る（看護師から握られた手を）患者は嬉しそうに握り返していた。必死に応えようとする患者の姿があった〉という場面をとり上げ、〈誰よりもあきらめない気持ち、自分にできることは何か、全てに覚悟と責任をもって行動している、そんな看護師になりたいと思った〉と考え、〈専門知識を持っていることで患者の安全・安楽・自立を目指した行為を行うことができる。言葉は話せない患者に対しても手と手が触れることで安心感を与えることができる。手を握ることで体温や肌の色を観察できる。そしてここに居ることを患者に伝えることもできると思う。お互いに落ち着く、言葉だけでは伝えることができないことを手を握ることで伝えることができ、患者も落ち着く〉と結論づけた。

Bは、〈意識のない患者と接するとき「触れる」コミュニケーションをとっていた。ICUからコンサートに連れていく。旦那さんが「（妻を）ゆすっても目を覚まさない」というような不安を漏らしていたが、クリスマスコンサートを二人で鑑賞し、奥さんに何か一生懸命話しかけていたとき、ICUでは見られなかったような笑顔があった。その時北村さんは離れた場所から二人の様子をずっと見守っていた。自宅に帰ることで家族の負担になると思い、泣き出してしまった患者に対して、励ますのではなく相槌をうっていた〉という場面をとり上げ、〈意識のない患者や急変することが多いICUの中で治療のサポートだけでなく、患者個人へのサポートや家族への働きかけなど様々な行動を起こす看護師の中には解剖生理や薬理の知識などの座学の知識だけでなく、判断力と総合的な行動力を感じた。今回の2名の看護師の直感に基づいた判断の根底には莫大な量の知識や看護技術があると感じた。必要な知識の量の多さや求められる判断力に圧倒された〉と考え、〈閉塞感のあるICUからコンサートに連れていくことで精神的負担を軽減するような配慮をしていた。患者自身に気分転換だけでなく、患者を支える家族（ご主人）の気分転換への配慮、また二人の空間を作ることで精神的な緊張や不安の軽減につながったのではないかと推測する。患者の整理しきれない不安や葛藤を少しずつかみ砕き、整理できるように促す配慮をしていた〉と結論づけた。

Cは、〈重症肺炎で意識はあるが呼吸不全でパルス療法を行い経過を見守っていた田中さんに対する北村さんの働きかけである。北村さんは良いきざしがした時に体を動かして肺の機能や体力の低下を防ぎたいと考えレントゲンを見て肺炎が改善されてきていることを確認して、トレーニングを行うことを医師に提案した〉場面をとり上げ、〈ギリギリのところ生死をさまよう患者を看護するクリティカルケアの現場では、1分1秒を争うため、患者の病状や検査の数値などに目がいきがちになると思っていた。しかし、北村さんのように気持ちに寄り添うことが回復につながっていくのではないかと考え、〈田中さんが娘さんの結納式に出席するためにできるだけ早く良くなりたいたいという希望をつなぐため、

病状を理解し、専門的知識や多くの経験から安全・安楽を考え、その上で出来るだけ早く自立が目指せるように考えた判断である」と結論づけた。

D は、〈永田さんの病状の進行具合をみて、患者の体力と意識状態が保てること、写真撮影当日の患者の状態を整えたり、急変しても対応できるように安全・安楽を目指した行為を行っていた〉場面をとり上げ、〈看護技術は、倫理的配慮に基づいて患者の安全や安楽、自立を目指すための行為であることがわかった〉と考え、〈看護師が持つ看護技術の行為の根底には、患者の安全・安楽が第一にあり、患者個人個人の意思を尊重し支えていくこと、その人らしい生き方ができる（自立）を目指していると考え〉と結論づけた。

7. 考察

新型コロナウイルス感染症の感染者数の増加によって学内実習にきりかえた「基礎看護技術実習」がその目標をどの程度達成できたのかについて考察する。

7-1. 学生の観察能力について

基礎看護技術実習における目標（表 2）に示した「観察」について目標 1-(1)、(2)、2-(1)、3-(2)、4-(2)、4-(3)、4-(4)、4-(5) には「観察」という用語が用いられている。つまり、本実習の主要な目標は学生の観察能力を高めることであった。

最初に病院の環境を知るために、実際の病院環境（長野赤十字病院）を撮影し、学生に提示した。学生は動画を通して、病院という環境を可視化し、初めて接する病院についての想像力を高め、学習したことがどう臨床現場で活用できるのか、より学習の動機づけが高まったと考えられた。

学生は、2 本の DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」を視聴することによって観察能力を養った。またカンファレンスにてお互いの考えを共有した。これらの DVD は 2 人の専門看護師の臨床実践場面であった。ドキュメントとしてリアリティとストーリー性があり、学生は冒頭から緊張感をもち強い関心をもった。そして、

特定の場面を抽出して看護師の専門性、役割などについて深い考察をすることができた。見て、学ぶ、言語化することの意味を DVD の視聴によって学ぶことができたと考える。学生の記述には「（看護師）の判断力に圧倒された」「不安の軽減につながるのではないかな」などの確かな記述がみられた。

7-2. 学生の看護師への認識について

DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」を複数回視聴することで、「自分はこんな看護師になりたい」という記述もあり、DVD の視聴から、学生は看護師の仕事や役割についてより認識を深めた。「6-2-1 看護師に求められる倫理観について」学生 A は看護師による患者の自己決定支援について述べ、また学生 B は治療の副作用を考慮しつつ患者の意思決定について支えることを考えている。また「6-2-2 安全・安楽・自立を目指した看護技術の提供について」学生 D は看護師が患者の意思を尊重し、その人らしい生き方ができることを目指していると述べている。このような結果から、2 年次で履修する看護学生として前半の実習である本実習において、学生は看護師の仕事や役割についてより認識を深めることができたと考えられる。

今回は専門看護師の活動を視聴した。看護師は専門看護師を特別な存在として認識することがあるが、学生は一看護師として認識し、活動について理解していた。

7-3. 看護行為における倫理的視点について

DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」は、急性期と終末期の場面であり、初学者としてはあまり体験しない命の危機に直面した患者の内容であった。学生は「生命倫理」などの学習に先んじて DVD の内容に直面することとなった。

DVD を繰り返し視聴し場面を確認し、カンファレンスで共通場面をとり上げて意見を述べることで、お互いの気づきを促進し自身の死期が近いなど、病気により重篤な状態にある患者そして家族に対して実際に看護師がどのように接し、寄り添っていくかを考える機会となった。

カンファレンスの効用は大きかったとする教員がいる一方で、発言の少ないグループのカン

ファレンスを担当した教員はカンファレンスの活性化に教員の介入を必要としたと述べている。

一方、看護技術としての看護行為の観察は、患者に「触れる」ことに学生が着目し、課題レポートや日々の記録の記載に多くの記述がみられた。初学者として高度な看護技術を学習していない段階では、看護師が患者に触れることの意味について言及していた。また患者が生きるために治療を望む姿勢や家族の結婚式への参加などの社会活動が疾患が重く難しい際、どのように患者にそれを伝え、患者のショックと向き合っていくのかについて言及していた。

学生は看護行為について倫理的視点をもって捉えることができた。

7-4. 他職種の役割について

この目標は学生の評点平均が3.5と低かった。

DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」には、具体的な他職種連携場面が少なかったため、教員が他職種の役割について学生に説明をする機会を設ける必要があると考える。

7-5. 学生の行動計画用紙への記載について

「病院実習1日目」の記録用紙は学生が病院の環境や患者の生活習慣の場としての環境について記載する欄が多く、それらの点に学生の視点を向けることができた。また「病院実習2、3、4日目」の記録用紙では、看護師と患者の相互行為について記載することにより、この点について学生の視点を向け、考えることができた。

8. まとめと提言

新型コロナウイルス感染症拡大によって臨地実習が不可能となり、基礎看護技術実習を学内実習に切りかえた。病院環境を撮影して動画を提示し、DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」を教材として2人の専門看護師の活動を視聴した。教員は学生がDVDを視聴した際に生じた疑問について、看護師としての経験も交え助言を加えた。

学内実習により目標の到達が確認できたことから、目標への到達方法は必ずしも臨地実習だけではなく、多様であることがわかった。

文 献

- 1) 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会：大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会第二次報告 看護学実習ガイドライン. 令和2年3月30日. 2020; Available from: https://www.mext.go.jp/b_menu/shinngi/chousa/koutou/098/gaiyou/mext_00260.html (2022年2月23日引用)
- 2) 文部科学省：新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について, 令和2年2月28日及び令和2年6月1日付事務連絡. 2020; Available from: https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf (2022年2月23日引用)
- 3) 日本放送出版会. プロフェッショナル仕事「迷わず走れ、そして飛び込め 専門看護師 北村愛子の仕事」(DVD). NHK エンタープライズ. 2007.
- 4) 日本放送出版会. プロフェッショナル仕事「希望は、必ず見つかる がん看護専門看護師 田村恵子の仕事」(DVD). NHK エンタープライズ. 2009.

資料：本実習で使用した行動計画用紙

行動計画用紙

病院実習 1 日目

【本日の目標】（「実習目標一覧表」から本日達成を目指す実習目標を抽出し、記入する）

【行動記録】

1. 病院実習初日に、病院の環境について、見たこと、考えたこと
(換気、空気、陽光、清潔、物音、におい、静けさなど)

2021 年度 基礎看護技術実習

2021 年 月 日 学籍番号() 氏名()

2. 入院患者の生活の場である病棟や病室について見たこと、考えたこと

(換気、空気、陽光、清潔、物音、におい、静けさ、ベッド・寝具、食事、清浄な水、トイレ など)

【本日の目標達成度・課題】

--

【本日の感想】

--

【教員コメント】

--

行動計画用紙

病院実習 2・3・4 日目 ○つける

【本日の目標】（「実習目標一覧表」から本日達成を目指す実習目標を抽出し、記入する）

【行動記録】

1. 看護師が患者とかかわった(相互行為)場面

2. 患者の状況について

1) 学生が①気づいたこと②解釈したこと

2) 看護師が行った行為とその理由（学生の推測）

3) 看護師の行った行為に対する患者の反応

2021 年度 基礎看護技術実習

2021 年 月 日 学籍番号()氏名()

3. 看護師はどのように考えて行動したのか。(看護師の考え)

4. 見学した状況や場面の全体を記述し、考えたこと

【本日の目標達成度・課題】

【本日の感想】

【教員コメント】